

## 人間動物関係学特論(二) (2単位)

担当者氏名 大石孝雄

### ◆学習・教育目標

本特論がバイオセラピー学専攻における科目であることを踏まえ、様々な局面で人との関わりが生じているイヌ、ネコ等の伴侶動物について、その家畜化と歴史、行動特性とその管理、人と伴侶動物の共生などをテーマに講義する。具体的には、イヌ、ネコを対象に行動の発達、感覚や学習能力、個体間のコミュニケーションなどの動物学的側面、アニマルセラピー、盲導犬などの社会的貢献や動物福祉などの社会学的側面、歴史の中の人と伴侶動物の関係などの文化史的側面について講義する。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

伴侶動物学 \_\_\_\_\_ イヌ・ネコの行動特性 \_\_\_\_\_ 人と伴侶動物の共生 \_\_\_\_\_ 動物福祉 \_\_\_\_\_  
 イヌの社会的貢献 \_\_\_\_\_ 人と伴侶動物の関係史 \_\_\_\_\_

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	生活科学としての伴侶動物学(1)	人間動物関係学及び伴侶動物学の学問的位置付け	学問体系と関連分野を把握させる。 動物としてのイヌ、ネコの特性を把握させ、行動管理に役立てる。 伴侶動物の社会的役割を理解させ、その活用とより良き共生を図る 人との関係史を理解させその役割を評価する
2	生活科学としての伴侶動物学(2)	伴侶動物学の取り扱う範囲と目標	
3	伴侶動物学における動物学的側面(1)	イヌの動物としての特性	
4	伴侶動物学における動物学的側面(2)	イヌの感覚能力と情報伝達手段	
5	伴侶動物学における動物学的側面(3)	イヌの知能と学習能力	
6	伴侶動物学における動物学的側面(4)	ネコにおける行動の発達	
7	伴侶動物学における動物学的側面(5)	イエネコの情報伝達手段	
8	伴侶動物学における社会学的側面(1)	ペットによる生理的・心理的癒し効果	
9	伴侶動物学における社会学的側面(2)	ペットによる社会的癒し効果	
10	伴侶動物学における社会学的側面(3)	イヌの社会的貢献(身体障害者補助犬)	
11	伴侶動物学における社会学的側面(4)	イヌの社会的貢献(嗅覚能力を活用した作業犬)	
12	伴侶動物学における社会学的側面(5)	愛玩動物の福祉	
13	伴侶動物学における文化史的側面(1)	宗教と動物観	
14	伴侶動物学における文化史的側面(2)	芸術・文化と動物観	
15	授業の総括	授業全体のまとめ	

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜資料を配布する。 / / ( )

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）ほか、授業の中で提示する

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートの提出などにより評価する。

### ◆その他受講上の注意事項